

# 胃がん

医療法人 嬉泉会 嬉泉病院

がん薬物療法専門医、指導医、がん治療認定医、教育医：大澤 浩

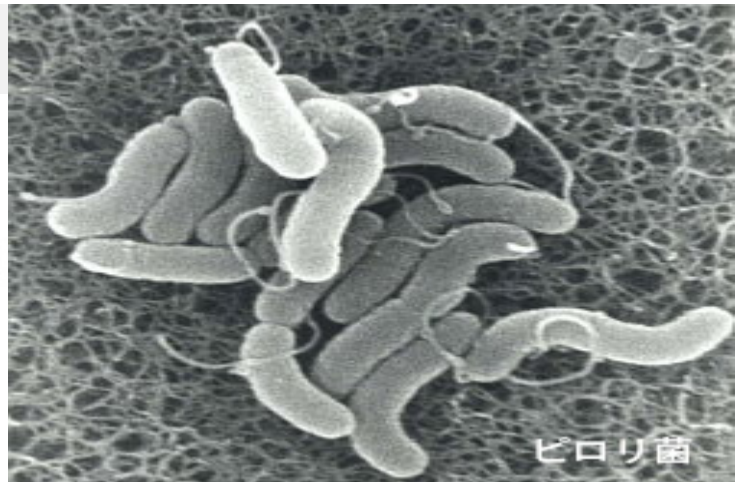
日本の胃がん死亡率は1960年代から男女とも大幅な減少傾向にありますが、いまだに日本ではポピュラーながんです。胃がんの罹患(りかん)率と死亡率は男性のほうが女性より高い傾向にあります。年齢別では40歳未満では男女差は小さく、40歳以降にその差が開きます。2004年に胃がんでの死亡数では、胃がんは男性で第2位、女性で第1位となっています。日本国内では、東北地方の日本海側で高く、南九州、沖縄で低い「東高西低」型を示しています。

① 死亡数(2009年)/罹患数(2005年):50,017人/117,137人

② 死亡率：肺がんに次いで死亡の第2位ですが、罹患数は第1位です。

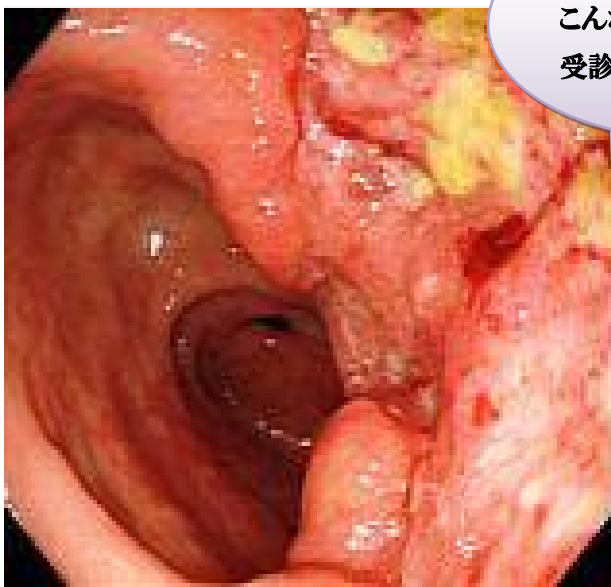
③ 影響を及ぼす因子：Helicobacter pylori感染、野菜や果物の摂取不足、喫煙、食塩過多など

『皆さんの胃の中にも  
ピロリ菌がたくさんいる  
かも・・・』



④ 症状:胃の不快感や吐き気が続く、食欲不振、胸のもたれ、黒色の便が出る、体重減少、貧血、げっぷが頻繁に出るなど、これらの症状は胃がん特有の症状もあるのですが、日常生活においてよくあることなので癌を疑わずそのまま放置しておくというケースがほとんどです。これらの症状は胃がんに限らず胃炎や胃潰瘍などのときの症状でもありますが、これらの症状が出てそれが何日か続くようなら必ずなんらかの病状があると疑って下さい。そして**必ず病院で診察を受けるようにしましょう。**

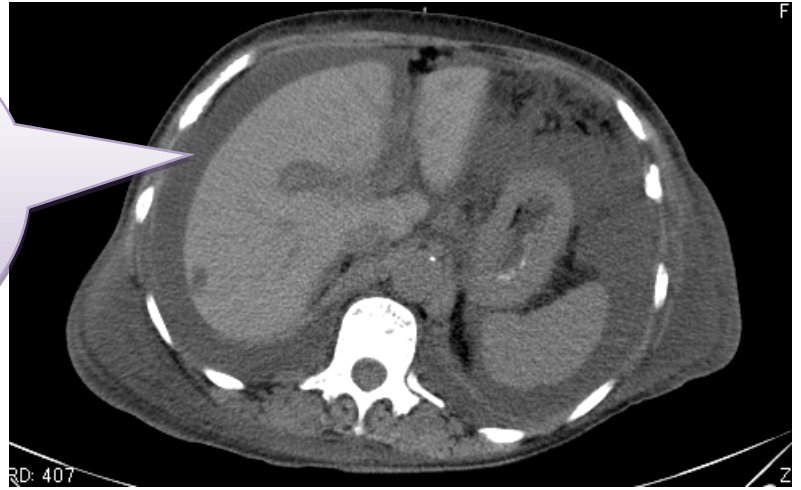
【診断はどのようにするの?】



胃カメラの実例です。  
こんなに悪化する前に  
受診しましょう!!

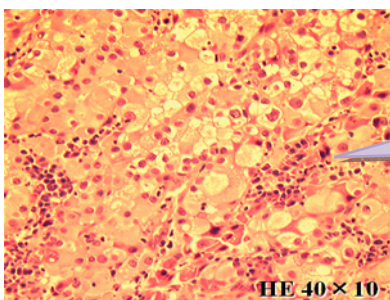


胃部不快感、食欲不振で初診された方の CT です。すでに腹水のなかに臓器が浮かんでいる状態でした。胃癌、がん性腹水と診断されました。こんなに悪化する前に受診しましょう！！



### 【検査と診断】

- ① 胃X線(バリウム)検査: 胃X線検査は、バリウム(造影剤)と発泡剤(胃を膨らませる薬)を飲んで、胃の中の粘膜を観察する検査です。胃がんや良性の病気である潰瘍やポリープも発見できます。但し検査の感度(がんがある人を正しく診断できる精度)は70~80%です。
- ② 胃内視鏡(カメラ)検査: 胃内視鏡検査は胃の中の小さな病変を見つけることが可能で、胃X線検査などの検診でがん等が疑われた場合に精密検査として用いられます。カメラで肉眼的診断と、組織を採取し組織学(病理学)的診断をします。
- ③ ペプシノゲン検査: 血液検査によって、胃粘膜の老化度(萎縮度(いしゅくど))を調べます。胃がんを直接見つけるための検査ではありません。しかし一部の胃がんは萎縮の進んだ粘膜から発生することがあるため、この検査で胃がんが見つかることがあります。陽性と判定された場合は、胃がんになる可能性があるため、定期的な検診を受けることが望ましいといえます。
- ④ ヘリコバクターピロリ抗体検査: 血液検査、尿素呼気検査や尿検査でヘリコバクターピロリ菌に感染しているかどうかを調べます。ヘリコバクターピロリ菌は、胃がんの原因となりうる細菌ですが、感染した人がすべて胃がんになるわけではありません。通常ヘリコバクターピロリ菌が原因となる胃がんは、小児期にヘリコバクターピロリ菌に感染し、高齢化してから発症しますが、その数はごく少数です。40歳以上の70%がヘリコバクターピロリ菌に感染しています。この検査では感染しているかどうかはわかりますが、胃がんの診断はできません。
- ⑤ 超音波内視鏡: 深達度(しみ込み具合)、腸管周囲のリンパ節転移を診断します。
- ⑥ CT検査: 肺、肝臓など遠隔転移、周囲組織(前立腺、膀胱)への浸潤やリンパ節転移などの確認をします。
- ⑦ MRI検査: 肺、肝臓など遠隔転移やリンパ節転移などの確認をします。
- ⑧ 腹部超音波検査: 肝臓など遠隔転移、周囲組織(前立腺、膀胱)への浸潤やリンパ節転移などの確認をします。
- ⑨ 胸部単純レントゲン検査: 肺など遠隔転移の確認をします。
- ⑩ 骨シンチグラフィ: 全身骨への遠隔転移の確認をします。
- ⑪ 採血検査: 胃がんのスクリーニングとして、腫瘍マーカー(CEA, CA19-9, CA72-4)等が用いられています。



以上のような全身検索を行い、最終的には内視鏡で採取した組織をこのように顕微鏡で診断します。

最後に！！

ご自分でできる唯一の『予防』は、診察、検査を受けることです。

嬉泉病院に御相談下さい。